

海外留学等 成果報告集

2022



・目次・

とちぎグローバル人材育成プログラムについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

海外留学等報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～14

・令和4（2022）年度 基礎コース派遣留学生・

U I M	No	分野	大学	学部	学 年	氏名	留学（インターンシップ）先	ペ ージ
基 礎 コ ー ス	1	留 学	宇都宮大学	国際学部	3	堀江 結	セントラル・ランカシャー 大学（イギリス）	2
	2		宇都宮大学	国際学部	3	西城 未来	ノーザン・ブリティッシュ・ コロンビア大学（カナダ）	3
	3		宇都宮大学	国際学部	3	斎藤 萌音	ノーザン・ブリティッシュ・ コロンビア大学（カナダ）	4
	4		帝京大学	医療技術 学部	3	片口 歩美	コロラド大学（アメリカ）	5
	5		宇都宮大学	地域デザ イン科学 部	3	増田 展暁	サラワク大学（マレーシア）	6
	6		帝京大学	経済学部	2	岡本 唯愛	帝京大学グループロンドン キャンパス（イギリス）	7
	7		宇都宮大学	国際学部	3	湯瀬 水晶	祥明大学校（大韓民国）	8
	8		宇都宮大学	国際学部	4	鈴木 福	パラツキー大学（チェコ共和 国）	9
	9		宇都宮大学	国際学部	4	古谷 菜々香	エアランゲン・ニュールンベルク・ フリートリッヒ・アレクサンダー 大学（ドイツ）	10
	10		宇都宮大学	国際学部	3	高瀬 弥依	ガーナ大学（ガーナ）	11
	11		宇都宮大学	国際学部	4	森 裕翔	ガーナ大学（ガーナ）	12
	12		宇都宮大学	国際学部	4	青野 凌河	ガーナ大学（ガーナ）	13
	13		国際医療福祉大	医療福祉学部	3	阿部 蓮叶	チョーライ病院・ホーチミン 医科薬科大学	14

とちぎグローバル人材育成プログラムについて

大学コンソーシアムとちぎでは、地域企業等及び栃木県の支援を受け「とちぎグローバル人材育成プログラム」を実施しています。

このプログラムは大学コンソーシアムとちぎ参加校に在籍する学生を対象に、グローバルな視点で物事を考え、行動し、課題を解決することが出来る人材の育成を目的として「とちぎグローバル人材育成プログラム 共通科目」の開講及び海外留学等支援事業で構成されています。

海外留学等支援事業には「上級コース」と「基礎コース」があります。

「上級コース」は、海外留学・海外インターンシップの奨学金（※1）および渡航費用等（※2）を支給します。

「基礎コース」は、海外留学・海外インターンシップの渡航費用等（※2）を支給します。

※1 月額6万円×最大5か月分。

※2 渡航費、保険料、査証取得料、荷物送付料。アジア地区 10万円、アジア地区以外 20万円。

◆昨年度からの変更点◆

「上級コース」は昨年度まで日本学生支援機構（JASSO）による「トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コース」として実施していましたが、今年度からは独自の支援制度となりました。

◆今年度の注意点◆

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、今年度は各大学等の協定締結校等への留学またはインターンシップに限るプログラムとなり「上級コース」には応募者がおりませんでした。 「基礎コース」には14名が採択されました。



1. 堀江 結

宇都宮大学国際学部 3年

留学等の機関名（国・地域名） セントラル・ランカシャー大学（イギリス）

期間 3か月

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか

私はこの留学を通して、積極性と文化理解の力を身につけた。自分の意見を積極的に発言し、相手に自己表現をすることによって交流がより流動的になるように心掛けた。また、これは単に自分の意見を述べ続けるということではなく、積極的にソーシャル活動に参加し、多くの人と関わりの機会を持つことで現地文化を理解することに繋がった。私はこの成果を、今後の就職活動に生かしたい。積極的に自己アピールをし、国際関係の仕事を行う中で多様な文化を理解し、全ての人にとって平等な社会作りに尽力したい。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか

私は上記の留学の成果を、外国籍の人が偏見や差別がなく平等に扱われ、全ての人々が交流しながら生活できる地域作りに役立てたい。私が留学していたプレストンは、大学が多くの留学生を受け入れているから多国籍地域として成り立っていた。しかし、差別はほとんどなく、全人種の人々が交流し理解し合える環境だった。私は栃木をそのような環境にするために、国際協力サークルとしての活動に力を入れたい。多くの文化を紹介して理解力を上げることによって、自然と多文化を受け入れ共存出来る地域作りに繋がると思う。



大学のイベント（ハロウィン）でパンプキン作成しました（右下。赤い服）

2. 西城 未来

宇都宮大学国際学部 3年

留学等の機関名（国・地域名） ノーザン・ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）

期間 3か月

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか

私は留学の成果として、ジェンダーや様々な文化的バックグラウンドを尊重する社会のあり方学んだことをあげます。日本において多様性に関する配慮が必要な方の支援を英語で行えるような人材になることで、留学の成果を活かしたいと考えています。また今後も日本国外の社会情勢に目を向け続け、そして語学を学び続ける、国際社会に貢献できる人材となるための努力を続ける動機とし、留学の成果を生かし続けたいです。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか

私は留学の成果を、宇都宮大学という組織内にある機会を通し、自信が留学で得た学びや経験、視点、そして英語力を活かしながら多くの人に伝え、活かしていきたいです。大学内におけるサークルや留学生のサポート組織などを通じて、地域全体の社会の国際化に少しでも貢献していければと考えています。コロナ禍での留学は現在留学を志す地域の大学生にとっても有益な情報であると考えため、可能な限りニューノーマルの社会における留学経験を継承し、今後留学を行いたい方に有意義な情報を残していきたいと考えます。



学生寮前で撮影した、ルームメイトとの写真です（左）

3. 齋藤 萌音

宇都宮大学国際学部 3年

留学等の機関名（国・地域名） ノーザン・ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）

期間 3か月

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか

今回の留学で、私はコミュニケーションとしての英語力を身につけること、日本が外国として認識される場所で新たな視点を得ることの2点を目的としていました。このような目的をもって行った留学で、わからないことは聞く、知らないことを知ろうとする姿勢が以前よりも身につき、また、違いを受け入れることの難しさを感じながらも、その違いを肯定的に受け入れられるようになったと思います。どこにいても、どの言語で話していても自分を表現し、相手を受け入れるコミュニケーションを心がけていきたいです。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか

今回の留学では、カナダで暮らす日本人というマイノリティー体験ができたと考えています。約4ヶ月間の留學生活の中で、言葉がうまく伝わらずに困ることや、カナダの「当たり前」に困惑することも多々ありました。このような経験を経て、地域で暮らす多様なバックグラウンドを持つ方々の気持ちを少しは知ることができたと感じています。語学力を活かすことはもちろんのこと、そのような方々と同じ目線に立って、より暮らしやすい地域になるような手助けができれば良いと思います。



大学看板

4. 片口 歩美

帝京大学医療技術学部 3年

留学等の機関名（国・地域名） コロラド大学（アメリカ） 期間 2週間

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか

留学先で出会った学生で、社会人を経験して入学した学生が多く、日本と比べて大学入学年齢が高い印象を受けた。この留学から、挑戦する年齢は関係ないことを肌で感じる事ができた。私は、留学先でMLS（メジャーリーグサッカー）の救護班を経験し、現場で救急対応できる存在になりたいと考えた。これらを実現するには、実際に現場でトレーナー活動をしたり、新たな知識を習得したりと沢山の時間を費やす。留学で感じたことを思い出し、年齢に関係なく、必要だと思ったこと・やろうと思ったことに挑戦をしたい。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか

留学を通して、ほとんどの教師がアスレティックトレーナーの資格を保有しており、教師とトレーナー活動を両立していることを知った。

この学びを活かして、部活動や授業等で怪我をしたとき、トレーナー等の救急対応できる存在を各学校に配置できるようなシステムを作りたい。教師がトレーナーの資格を持つ・勉強することで、怪我した生徒の競技復帰を早めることができ、生徒が安心して活動に取り組むことができると考える。留学の成果を、栃木県民の健康づくりの底上げに活かしたい。



レジス大学で生徒と一緒に授業を受けました。（真ん中の白い服）

5. 増田 展暁

宇都宮大学地域デザイン科学部 3年

留学等の機関名（国・地域名） サラワク大学（マレーシア） 期間 6か月

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか

私は自分が留学で得た成果を、大学院入試とその後の大学院での勉強で生かしたいと考えている。私は現在学部で学んでいる分野とは異なる分野で院進学を希望しており、今回の留学ではそのために必要な授業を履修した。自分の専攻とは異なる新しい知識を英語で、それも海外で学び、最後まで留学を終えた経験は私にとって大きな自信となった。留学中に学んだ知識・英語力はこれからの大学院入試に直接繋がる重要な力となり、留学をやり遂げた自信とノウハウはその後の院での勉強や更なる留学へ生かすことが出来るだろう。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか

私は留学の成果を他の宇都宮大学の学生に伝えることで、そして将来地元に戻り働くことで、地域に還元したいと考えている。私が留学先で学んだこと、得られたこと、苦勞したこと、後悔したことなどを出来る限り友達や後輩、留学に興味がある学生たちに伝えていくことは、彼らのこれからの学びや留学に多少なりとも利益を与えられると考える。また、今回得た学びを基に更なる学び・成長をこれから獲得していき、得た力を将来地元で最大限発揮することで、次の世代へとつなげていきたい。



学期終わり、クラス全員での集合写真

（上から2列目、左から1番目）

6. 岡本 唯愛

帝京大学経済学部 2年

留学等の機関名（国・地域名） 帝京大学グループロンドンキャンパス（イギリス）

期間 1か月

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか

この留学を通して未知の場所で人脈を作れたことや英語のスキルアップへの意欲の高い人が集まっていたので良い環境で経験できたことは自分にとって大きな財産となり自信となった。アメリカ英語とイギリス英語では発音だけではなくスペルも大きく異なることを体感できた。また、日本との相違点も多く新しい発見もできた。現地の人と活発にコミュニケーションをとるよう心がけていたので洋画や日常会話を難なく理解できるようになった。毎日英語に触れこのまま英語力を向上していけるよう、努力していきたいと思う。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか

将来は地域に貢献できる公務員になりたいと考えている。今回の留学で日本との相違点を多く発見できた。街並みにはゴミ箱が至る所に置いてあったり、支払いがカード払いのみで電子化が進んでいた。また、マイボトルを持参していることから環境問題への意識も感じられた。あまり見かけることがないものばかりで、日本ではゴミが出た場合は家に持ち帰る必要があり不便に感じることもある。公務員になり職務に全うし栃木県民にとって住みやすいまちづくりに携わっていきたい。



両端の方がティーパーティに招待してくださったご夫婦

7. 湯瀬水晶

宇都宮大学国際学部 2年

留学等の機関名（国・地域名） 祥明大学校（大韓民国）

期間 10 か月

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか

私が留学生活を通して得たものは、「行動力」であると思います。母国である日本にいる際は、ある程度は受動的であっても情報や知識を得られました。しかし、留学先では知り合いが少なかったり、母国語ではないことであったりするために障害が多く、自らが主体的にアクションを起こさなければ語学を伸ばすことや友達を作ること、成長をすることができないと気付かされました。私の次の夢をかなえるために必要なことを見極め、今から計画的に行動に移していくことに生かしていきたいと考えています。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか

私は留学生活中、現地学生に韓国生活をサポートしてもらえる制度を利用していたのですが、留学前に私自身もチューター活動でサポートする側を務めていました。サポートされる側になって見えた改善点もあったため、今後はその経験を生かして引き続き、宇都宮大学に留学に来る世界各国の留学生が心配なく勉学に励むことができるサポートをしたいと考えています。私のサポートが留学生にとって、いつか栃木県ではたらきたいと思ってもらえるきっかけになったらいいなと思っています。



韓国の友人と景福宮を訪れた際の写真

8. 鈴木福

宇都宮大学国際学部 3年

留学等の機関名（国・地域名） パラツキー大学（チェコ共和国）

期間 5か月

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか

私が留学中に得た力として、大きく語学力と国際交流への意欲の2つがある。語学力に関しては、日々の生活や多国籍の留学生との会話を通じて獲得した英語コミュニケーションにおける表現やテンポ、そして授業を通じて学んだ学問的な文章や書き方が、今後の実生活および学術研究に生かされていくと考える。また、留学中様々な場面で生まれた国際交流は、私自身にとって大変刺激的な体験であり、留学を終えた現在では、これまでよりさらに国際的な交流の機会を増やし異文化、そして国際的な理解を深めたいと考えている。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか

前述したように、留学を経た現在は、より多くの国際交流の機会を設けたいと計画している。まずは宇都宮大学内の交流の場を増やしたいと考えており、自身が大学内の国際交流の場に参加するのみならず、イベントを企画することも目標としている。今学期には、大学の留学生チューター制度を利用し、担当留学生の在学中のサポートをすることが決定しているので、個人という範囲でも学内の学生団体という範囲でも国際交流を活発化させる役割を担えるよう努め、徐々に学外の地域にも国際的な交流機会を広めていきたい。



国別プレゼンテーションの日本の発表で振る舞ったおにぎり

9. 古谷菜々香

宇都宮大学国際学部 3年

留学等の機関名（国・地域名） エアランゲン・ニュールンベルク・フリードリッヒ・アレクサンダー大学（ドイツ）

期間 10 か月

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか

留学中は環境社会的な観点から、ドイツの持続可能なライフスタイルに着目し、柔軟に自ら取り入れて過ごしました。日本でも物を大切に使い、共有し、再利用する循環社会を推進し、自然と調和した心地よい生活を実現するため、ドイツの事例を卒業研究や今後の生活に生かしたいと思います。また、他国で過ごす負担感や不安と、新しい経験への欲求に葛藤する日々を経験したことで、挑戦と心理的余裕のバランスの重要性を学びました。この経験を今後の活動に活かし、最大限自分の力を発揮する過程に活かそうと考えています

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか

留学中は環境に配慮した取り組みを知り、体験する機会を得ることができました。特に、資源の循環を促すフリーマーケットやコンポスト、街の緑化やオーガニック農園などの取り組み、気候変動のデモなどは貴重な学びの機会となりました。栃木県でもNPO法人うつのみや環境行動フォーラムや那須塩原市、宇都宮市環境保全課などで環境に配慮した活動が活発です。私がゼミの活動を通して取り組んでいるUU3Sで、これらの団体と協働しながら、ドイツの事例を参考に新しいアイデアを反映していきたいです。



ミュンヘンのオクトーバーフェストを訪れた時の様子

10. 高瀬弥依

宇都宮大学国際学部 3年

留学等の機関名（国・地域名） ガーナ大学（ガーナ）

期間 7か月

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか

留学で身につけた行動力を生かして、これからも様々なことに積極的に挑戦していきたい。言語も文化も生活基準も日本とは全く違うガーナで7か月間生活したことで、意外と物事は何とかなる、何とでもなる、ただ一歩踏み出すのが難しいだけだと実感した。私もガーナに来た当初は日本との違いに苦労したが、現地の人々の温かさや助け合いの精神に触れていく中で、ガーナにしかない良さを感じることができ、留学に挑戦してみてもよかったと思えた。だからこそ、これからも自分の興味を大切にしていきたい。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか

この貴重な留学経験を、地域の人々、特に私と同じように留学を希望する学生に伝えたい。私は留学するまで一人暮らしをしたことがなく、留学に非常に不安があった。だが、留学に行った先輩たちや海外勤務を経験したことのある方々から話を聞くことで後押しされ、留学を決意することができた。実際、すでに自分の大学ではワークショップを開いて後輩に留学の魅力を伝えたり、留学生と共にアフリカに少しでも興味を持ってもらえるよう大学祭に向けて準備したりしているため、これからもこのような活動を続けていきたい。



ガーナボルタ州、JICA協力隊任地を見学した時の様子（中央）

11. 森 裕翔

宇都宮大学国際学部 4年

留学等の機関名（国・地域名）ガーナ大学（ガーナ）

期間 7か月

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか

約7か月の留學生活の中で、日本とは全く異なる文化圏での生活、異なる文化的背景を持つ人とのコミュニケーション、途上国の実際など、様々なことを体験しました。中でも、現地で色々なガーナ人と交流する中で、異なる文化的背景を持つ人と話す際に気を付けるべきこと、無意識のうちに相手に不快感を与えないことの重要性を学びました。私は今後グローバルな環境で働きたいと志望しており、様々な人と関わりを持つ中で、無意識に相手を傷つけないコミュニケーションを実践していきたいと考えています。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか

留学を通して、全く知らない土地に滞在する時には言語面も含め、様々な不安があることを体感しました。地域にいる外国人に対して、言語の面で分からないことがあったら英語でサポートしたり、文化や生活の面では、相手の文化的背景を否定しないように日本の習慣やルールを説明したりするなど、地域社会に少しでも馴染むようなサポートをしていきたいと考えています。



地方の学校に足を運び、卒業論文の調査（授業観察）を行っている。（写真中央）

12. 青野 凌河

宇都宮大学国際学部 4年

留学等の機関名（国・地域名）ガーナ大学（ガーナ）

期間 7か月

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか

留学を通じて得た英語力とアフリカのビジネスノウハウに関する知識を、将来アフリカで仕事をする際に活かしたい。留学前は十分な英語力もアフリカビジネスに関する知識も無かった。そこで留学中に2つの行動をとった。ガーナ人の友人と毎日英語で話すことと、現地総合商社を訪問しアフリカでの事業について学ぶことだ。その結果、英語力を向上させ、アフリカにおけるビジネスのノウハウに関する知識を得ることができた。これらを活かし、将来商社にてアフリカと日本を繋ぎ、アフリカの発展に貢献していく所存である。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか

アフリカへ飛び出そうとしている方が一歩を踏み出せるようにサポートしていきたい。日本人の多くは、アフリカに対して病気や犯罪などのマイナスのイメージを持っており、アフリカに行くのをためらってしまう。私はガーナへ行き、病気や犯罪に巻き込まれないようにする方法を学んできた。この知識を大学や地域のアフリカへ踏み出すことを躊躇している方達に伝え、その方がいずれグローバル人材となり地域に貢献できるようにサポートしていきたい。



カカオ農家に1週間ホームステイし、フィールド調査を行った様子。（写真中央 黄色の服）

13. 阿部 蓮叶

国際医療福祉大学 医療福祉学部 3年

留学等の機関名（国・地域名） チョーライ病院・ホーチミン医科薬科大学（ベトナム）

期間 10 日間

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか

ベトナムで先進的な医療を提供するホーチミン医科薬科大学とベトナム南部の医療を包括的に担うチョーライ病院で実習させていただくことで、医療機器や患者数に対する医療従事者の不足などといった課題を見出すことができた。がん患者とその家族への充実した支援体制には日本との違いを感じた。慈善事業やボランティア活動は非常に活発であり、病院内は学生のボランティアであふれている。そういった状況を見て、対象者はもちろんその方を取り巻く環境にもアプローチできるようなワーカーになりたいと感じた。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか

病院実習の際、救急で運ばれてきた患者の家族が混乱している場面や、寝たきりの患者に一晩中寄り添う家族を目の当たりにして、患者だけでなくその家族へのケアはおろそかにしてはいけないと改めて感じた。これは病院だけでなく、障害や高齢の施設でも同じことがいえると思うが、決して病院や施設だけの問題にせず、地域での体制づくりが必要であると思う。まずはその一歩として、自分の地域の病院でボランティアをしようと思う。



チョーライ病院